

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 I , III , V 】
2 実施対象者	八千代町立下結城小学校 第3学年 30名 第4学年 32名 第5学年 33名 第6学年 32名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (特別活動) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック教育を実施することにより、オリンピック・ムーブメントの普及・推進を図るとともに、スポーツ機運の醸成を図り、児童が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
5 取組内容	1 「身体のつかい方教室～オリンピック・パラリンピック選手は、同じフォームじゃないのは、なぜ??」 ① 期日 平成30年12月18日(火) ② 講師 相澤整骨院院長 相澤 順 先生 ③ 内容 本校の3, 4年生を対象に「身体のつかい方」についての講演及び体験活動を実施した。人は、重心のかけ方で4タイプに分かれ、それぞれのタイプでからだの使い方が違うという4スタンス理論について学習した。 映像で、4タイプによって、速く走る体の動かし方がすべて違うことを知ることができた。講演では、姿勢が正しくなることで脳が安定し、集中力や理解力が高まるという話があった。体験では、水を入れた紙コップを持って動くことで、児童全員の姿勢が大変よくなっていく経験ができた。





2 「オリンピックの歴史・意義と私たち」

- ① 期日 平成31年1月23日（水）
- ② 講師 スペシャルオリンピックス日本・茨城 副会長
鈴木 宏治 先生
- ③ 内容

本校の5, 6年生を対象に、オリンピックの歴史やパラリンピックスペシャルオリンピックスについての講演を実施した。

様々なプレゼンテーション資料を通して、オリンピックの歴史や意義について、児童にも分かりやすく話が聞けた。後半は、実際に活躍しているスポーツ選手やパラリンピック、スペシャルオリンピックス選手の映像を中心に講演していただき、スポーツを通して、共生社会について考える機会をつくることができた。



3 オリンピック・パラリンピックを知ろう！

オリンピック・パラリンピックについての掲示物をパネル掲示することで児童が、オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高め、2020年東京オリンピック・パラリンピックへの参画意識を高めるようにしている。また、学校図書館にオリンピック・パラリンピックに関連する図書を置き、児童にさらに親しみを持てるようにした。

	
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身体のつかい方は、一人一人違うことや正しい使い方が、人の活動をより良いものにすることが理解できたため、日頃の姿勢を意識し、苦手なスポーツにも挑戦しようとする意欲が見られるようになった。 ○ オリンピック・パラリンピックの意義をよく知ることによって、児童それぞれが東京オリンピック・パラリンピックへの参画意識を高められた。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域で、スポーツや福祉関係が専門の講師を依頼し、児童の実態に応じた講演や体験活動を実施することができた。今後も、児童のより良い運動指導ができるよう連携を図ることができた。 ○ 講演以外に学校環境にオリンピック・パラリンピックへの興味関心が高まる環境づくりを行った。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講師依頼に関して、地域に適した講師がいることを事前に学校が分かっていたので良かったが、身近に講師がいないなど、講師依頼が困難な学校等もあると思われる。オリンピック・パラリンピック教育推進事業に係る講師リストなどがあると助かると思われる。 ○ 本校は、前年度までの他校の取り組みなどが資料として見られると、各校も計画の幅が広がると思われる。参考資料等が見ることのできる体制（ネット検索等）ができるとよい。 ○ 講演以外にも講師等が継続的に来校し、スポーツへの関心が高まる取組が実施しやすくなるとよい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の講師との連携を継続し、体育の授業の中でよりよい身体の動きができるよう教員の研修を行っていく。 ○ 児童の委員会活動（体育・放送・図書等）で、オリンピック・パラリンピックの内容を取り上げ、児童自身による活動を増やしていく。 ○ パネル掲示の内容は、定期的に更新し、児童の興味関心が継続するようにしていく。